

第6表 出土装身具観察表③

丸玉

挿図番号	材質	色調	重量 (g)	最大径 (mm)	最大厚 (mm)	孔径 (mm)	出土位置	出土層位	取り上げ番号
79	土	茶黑色 (Brownish Black)	0.27	6.85	5.90	1.30	3 A	床面上層	257
80	土	茶黑色 (Brownish Black)	0.25	7.10	5.60	1.15	3 A	床面上層	258
81	土	茶黑色 (Brownish Black)	0.30	7.20	6.50	1.25	3 a	床面上層	259
82	土	茶黑色 (Brownish Black)	0.30	7.55	6.85	1.25	3 A	床面上層	261
83	土	茶黑色 (Brownish Black)	0.29	7.30	6.65	1.20	2 C	床面上層	269

白玉

挿図番号	材質	色調	重量 (g)	最大径 (mm)	最大厚 (mm)	孔径 (mm)		面径 (mm)		出土位置	出土層位	取り上げ番号
						最大	最小	最大	最小			
84	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.42	10.60	9.15	2.10	2.00	7.35	6.20	2 a	砂利層内	2005
85	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.55	10.55	9.60	1.75	1.45	7.40	6.10	2 D	砂利層内	2022 大
86	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	1.26	9.70	9.90	1.60	1.50	7.20	6.55	2 a	砂利直上	2106
87	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.36	10.30	9.35	1.60	1.30	6.80	6.10	2 b	砂利層内	2014 面斜め
88	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.41	10.60	9.30	1.90	1.75	6.80	6.15	2 b	砂利層内	2014
89	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.47	10.50	9.65	2.20		6.75	6.50	2 a	砂利層内	2013 大
90	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	1.44	10.55	9.40	2.00	1.85	6.90	6.35	2 b	砂利層内	2014 面トビ
91	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.85	8.85	7.70	2.15	1.85	7.00	6.15	2 f	砂利層内	2024 大
92	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.84	8.85	7.50	2.35	2.05	6.60	6.10	2 a	砂利層内	2013 中
93	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.69	8.50	6.40	1.55	1.40	6.95	6.30	1 C	床面上層	285
94	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.72	8.90	6.60	2.05	1.75	6.90	6.15	3 A	床面上層	546
95	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.79	9.55	6.25	2.30	2.15	7.95	7.10	2 E	砂利層内	2009 大・ワレ
96	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.63	8.20	6.45	2.05	1.70	6.75	6.25	2 G	砂利層内	2025
97	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.58	8.35	5.60	1.35	1.20	6.60	5.95	3 A	床面上層	537
98	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.76	9.00	6.30	1.65	1.35	7.05	6.45	2 D	砂利層内	2022 中
99	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.56	8.15	6.10	1.30	1.20	6.85	6.10	3 A	床面上層	523
100	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.75	8.75	7.05	2.10	1.40	7.05	6.20	2 E	砂利層内	2009 大
101	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.40	7.90	5.90	1.65	1.50	-	-	2 C	砂利層内	2007 ワレ
102	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.69	8.90	5.95	1.40		6.75	6.20	2 E	砂利層内	2009 中
103	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.62	9.35	5.95	2.75	2.10	8.30	7.10	2 C	砂利層内	2007
104	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.64	8.80	5.45	1.80	1.40	7.35	6.30	2 e	砂利層内	2028
105	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.58	8.20	5.75	1.45	1.10	6.75	6.40	2 E	砂利層内	2009 小
106	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.61	8.70	5.75	1.35	1.25	6.60	5.90	1 c	砂利直上	2107
107	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.54	8.15	5.50	1.55	1.25	6.10	5.65	1 c	砂利直上	2108
108	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.49	8.15	5.40	1.05	0.95	5.55	4.75	2 a	砂利層内	2013 小
109	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.47	8.20	5.00	1.60	1.50	-	-	3 A	床面上層	524
110	ガラス	紺瑠璃色 (Deep Blue)	0.30	8.00	3.90	2.70	2.50	6.50	6.30	2 f	砂利層内	2024 小
111	ガラス	紺色 (Cyanine Blue · Midnight Blue)	0.41	6.95	4.35	1.35	1.30	6.05	5.75	2 D	砂利層内	2022 小

第7表 出土装身具観察表④

小玉

押図番号	材質	色調	重量 (g)	最大径 (mm)	最大厚 (mm)	孔径 (mm)	面径 (mm)	出土位置	出土層位	取り上げ番号
112	ガラス?	ハニーイエロー(Honey Yellow)	0.22	7.25	3.05	2.10	5.75	2 b	砂利層内	2014
113	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.09	4.50	3.10	0.65	-	2 d	砂利層内	2018
114	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.04	3.50	2.35	0.50	-	2 G	砂利層内	2025-1
115	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.05	3.90	2.45	0.80	-	2 G	砂利層内	2025-2
116	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.05	4.25	2.55	1.40	-	2 G	砂利層内	2025-3
117	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.05	4.30	2.55	1.30	-	2 G	砂利層内	2025-4
118	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.04	4.00	2.35	-	3.25	4 K	床面上層	2056-1
118	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.04	3.10	2.15	-	-	4 K	床面上層	2056-2
120	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.06	4.00	2.60	-	-	4 K	床面上層	2056-3
121	ガラス	紺瑠璃色(Deep Blue)	0.07	4.80	2.80	1.60	-	4 K	床面上層	2056-9
122	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.04	3.70	2.30	-	-	4 K	床面上層	2056-10
123	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.05	3.85	2.65	1.10	-	4 K	床面上層	2056-11
124	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.05	4.00	3.55	-	-	4 K	床面上層	2056-12
125	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.06	4.80	2.20	1.15	-	4 K	床面上層	2056-13
126	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.04	3.30	3.05	-	-	4 K	床面上層	2056-14
127	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.11	5.05	3.30	1.20	-	4 K	床面上層	2056-15
128	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.04	3.70	2.15	-	-	4 K	床面上層	2056-16
129	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.04	3.20	2.55	-	-	4 K	床面上層	2056-17
130	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.03	3.65	2.05	-	-	4 K	床面上層	2056-18
131	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.05	4.15	1.95	1.45	-	4 K	床面上層	2056-19
132	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.06	3.90	2.85	-	-	4 K	床面上層	2056-20
133	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.05	3.70	3.00	-	-	4 K	床面上層	2056-21
134	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.03	3.30	2.35	-	-	4 K	床面上層	2056-22
135	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.06	5.05	2.20	1.85	-	4 K	床面上層	2056-23
136	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.05	4.55	2.00	1.35	-	4 K	床面上層	2056-24
137	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.04	3.60	2.60	-	-	4 K	床面上層	2056-25
138	ガラス	緑青色(Grotto Blue)	0.10	4.50	3.45	1.25	-	4 K	床面上層	2056-26
139	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.10	5.05	3.00	-	-	4 K	床面上層	2056-4
140	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.07	4.30	2.95	-	-	4 K	床面上層	2056-5
141	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.30	2.60	-	-	4 K	床面上層	2056-6
142	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.05	3.20	3.05	-	-	4 K	床面上層	2056-7
143	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.20	2.80	-	-	4 K	床面上層	2056-8
144	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.08	4.30	2.85	1.05	-	3 C	床面上層	2033-2
145	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.05	3.70	3.05	1.00	-	3 C	床面上層	2033-3
146	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.05	3.60	3.00	1.10	-	3 C	床面上層	2033-3
147	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.03	2.95	2.95	0.85	-	3 C	床面上層	2033-4
148	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.06	4.05	2.45	0.80	-	3 C	床面上層	2033-5
149	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.60	2.45	0.60	-	3 C	床面上層	2033-6
150	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.65	2.55	1.00	-	3 C	床面上層	2033-7
151	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.03	2.90	2.55	-	-	3 C	床面上層	2033-8
152	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.80	2.15	0.55	-	3 C	床面上層	2033-9
153	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.05	3.75	2.80	0.55	-	3 C	床面上層	2033-10
154	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.03	3.40	1.90	0.65	-	3 C	床面上層	2033-11
155	ガラス	明黄色(Brilliant Yellow)	0.04	3.40	2.50	0.75	-	3 C	床面上層	2033-12
156	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.02	2.90	2.05	-	-	4 K	床面上層	2056-27
157	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.02	2.75	2.45	-	-	4 K	床面上層	2056-28
158	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.02	2.95	2.20	-	-	4 K	床面上層	2056-29
159	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.04	3.30	2.60	-	-	4 K	床面上層	2056-30
160	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.03	3.20	1.85	-	-	4 K	床面上層	2056-31
161	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.03	3.70	1.90	-	-	4 K	床面上層	2056-32
162	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.05	3.75	2.50	-	-	4 K	床面上層	2056-33
163	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.03	3.70	2.05	-	-	4 K	床面上層	2056-34
164	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.03	3.25	2.20	-	-	4 K	床面上層	2056-35
165	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.04	3.85	2.05	1.35	-	4 K	床面上層	2056-36
166	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.03	3.30	2.45	-	-	4 K	床面上層	2056-37
167	ガラス	エメラルドグリーン(Deep Yellowish Green)	0.04	3.55	2.35	-	-	4 K	床面上層	2056-38

玉類個々の詳細な計測値は観察表(第4～7表)に譲り、ここでは全体的特徴を記す。

【勾玉】 石屋形2 a区砂利層内から1点のみ出土した(第34図-41)。石材は非糸魚川産の軟玉系翡翠製で、丁寧に研磨されている。全体的に淡緑色を呈し、白色で不透明な部分と緑色で透明感のある部分が不規則に分布している。頭部は丸く仕上げているが、先端部に若干の面を有する。尾部も丸く仕上げているが、先端部のカーブの角度が異なり、表裏を意識して研磨したと考える。頭部の孔の直径は、表裏で異なり片側からの穿孔であることが分かる。

【空玉】 玄室を中心に多数の破片が出土したが、一部石屋形内からも出土した。このうち完形もしくは完形に近い5点を図化した(第34図-42～46)。破片数から勘案するとさらに10点程度は出土したと考える。いずれも銀製で半球状に加工したものを2つ接合して成形している。上下に直径1.1～2.3mmの孔がある。中空で厚さは0.1～0.2mmと非常に薄い。直径から大形(42～44)と小形(45・46)に細分できる。大形のもの、孔周辺が若干面をもつ以外はほぼ球形であり、接合部も表面からは判別しにくいものもある。小形のもの、孔周辺に比較的明瞭な面もしくは凹みを有する。また、接合部にも緩い稜をもち厳密な球形とは言い難い。

【管玉】 約20点以上出土したが、このうち16点を図化した(第34図-47～62)。碧玉製のものが大部分であるが、琥珀製(59・60)、ガラス製(61・62)のものも少数認められる。碧玉製管玉は、最大径6.5～6.9mm、最大厚18.0～20.5mmの範疇に入るものが大部分で、規格性が推測できる。穿孔は全て片側穿孔であり、一部の個体には穿孔面の反対側に剥離痕が認められる。両端面には複数回の研磨痕が確認できるが、穿孔時に生じたものかは不明である。また、側面を研磨した際の擦痕も若干認められる。両端面の縁が欠けているものもあるが、その欠損部まで丁寧に研磨されており、製作時に生じた欠損であることが分かる。

琥珀製管玉は2点確認した。いずれも石屋形南東側の砂利層内から出土している。穿孔は全て片側穿孔であり、穿孔面および反対側に穿孔時に生じたと推測できる剥離痕が確認できる。材質硬度の差異のためか、碧玉製管玉と比較して孔の直径が大きいことが特徴といえる。

ガラス製管玉は、2点図化した。琥珀製管玉同様、石屋形南東側の砂利層内から出土している。材質はガラス質としているが、不透明で気泡も確認できないため、確実な材質同定は今後の課題としておきたい。ガラス製管玉は他の碧玉製管玉と比較して孔の直径が大きく、また碧玉製・琥珀製管玉に比して両端面の縁が丸いことが特徴である。

【算盤玉】 計4点を図化した(第34図-63～66)。算盤玉はすべて石屋形内東側の砂利層内から出土している。水晶製で丁寧に研磨されている。いずれも片面穿孔であり、穿孔面および反対側に剥離痕が認められる。穿孔内面には朱の付着が観察できるものもある。形態的には細長いもの(63)と、いわゆる算盤玉の形態のもの(64～66)に細分できる。

【切子玉】 計8点出土し、その内、完形および完形に近い7点を図化した(第34図-67～73)。切子玉は石屋形外の玄室北西部の床面直上から出土しており、算盤玉とは位置的に対照的な分布を呈する。いずれも水晶製で丁寧に研磨されている。表面の擦痕のため不透明なものが多いが、透明度の高いものもみられる。いずれも片面穿孔であり、穿孔面および反対側に剥離面が多数認められる。形態的に球形に近いもの(67・68)と、細長いもの(69～73)に分けられる。細長いものは、最大径からさらに細分が可能である。

【棗玉】 玄室を中心に多数の破片が出土したが、一部石屋形内からも出土した。このうち完形もしくは完形に近い5点を図化した(第35図-74～78)。破片数から勘案するとさらに5点程度は出

土したと考える。埋木製が多数を占めるが、琥珀製(74)も出土している。琥珀製棗玉は、図化し得たものは1点のみであるが、他にも破片が出土している。今後の整理作業の進捗によってさらに数個体は接合・復元が可能と思われる。この棗玉は最大径の部分が殆ど突出せず、直方体状の形態をしていることが特徴である。一方、埋木製棗玉は中央部の最大径を持つことが特徴である。上下の面の角度や最大径の位置、断面形などが全て異なっており、材質に起因して不揃いな製作しか出来なかったと思われる。

【丸玉】 丸玉は、いずれも土製で約60点出土しており、このうち5点を図化した(第35図-79～83)。大きさは最大径7.0～7.5mm、最大厚5.6～6.8mmの範疇に大部分が収まる。図化したもの以外に、3A区床面上層の土師器埴(第28図-20)内部より出土した35点がある。これは本来、紐で繋がれていたと推測できる。丸玉の表面はいずれも研磨されている。色はすべて黒色である。製作時に焼成されたかについては判断することができなかった。今後の分析課題としておきたい。

【白玉】 白玉はいずれもガラス製で約100点出土し、この内、28点を図化した(84)～(110)。なお、白玉と小玉の厳密な区別は困難であるが、本稿では王墓山古墳での玉類の分類基準に準拠し(笹川1992)、最大径6.0mm以上、最大厚3.5mm以上、重量0.3g以上を白玉、以下を小玉と定義することにする。白玉はいずれもガラス製で約100点出土した。これらの大部分の最大径は8.0～10.5mmと大差はないが、最大厚は7.5～9.9mmのものと3.9mm～6.6mmのものに細分できる。いずれも面取りは研磨されている。色調はすべてコバルトブルー系であるが、濃淡によっておおむね2種類に分類できる。しかし、先述の最大厚による分類とは対応していない。

【小玉】 小玉は約350点出土した。このうち、各色ごとに任意に55点を図化した(112)～(167)。大部分はガラス製であるが、1点のみ異なった形状・大きさの小玉(112)が出土している。この小玉は他のものよりも直径が大きく、白玉の範疇で捉えた方が良いかもしれない。材質は現段階ではガラスと思われるが別の素材の可能性もある。中心部が灰白色、外縁部が琥珀色の2層構造になっている様にも見えるが、風化・劣化によるものだろう。材質・製作技法の検討は、今後の科学分析に委ねたい。

ガラス製小玉は透明度の高い緑青色57点、エメラルドグリーンが162点、明黄色65点、紺瑠璃色52点、橙色2点と非常にバラエティーに富んでいる。大きさは、最大径3～4mm、最大厚は2～3mmの範疇に大部分が収まる。むしろ、端面の角の形態が丸いか比較的角度を持つかで分類できそうである。この違いはすなわち製作技法の違いとなると考える。気泡が観察できる個体もあり、詳細な検討は全個体の図化・観察作業が終了した段階で提示することにしたい。

第5節 まとめ

【土師器について】 古墳時代中期には同じ器形の土器、特に高坏を土壙や古墳にまとめて廃棄する行為が関東から九州までの広い範囲で見られる(辻1999)。各地域で高坏の形態は異なるが、共通する祭祀が広域で行われていた可能性があるが、菊塚古墳が築造される時期には土師器の土器組成全体に占める高坏の割合は急激に減少する。また、横穴式石室での出土例が多く、日常容器よりむしろ葬送を含めた祭祀用具としての様相が強くなるが、畿内の古墳時代後期では大阪府河内愛宕塚古墳で6点、奈良県平林古墳で6点、奈良県藤ノ木古墳で5点みられる程度で菊塚古墳のように大量に副葬される例は少数である。また、それらの古墳ごとに坏部および脚部の形態・

製作技法は多様であり、須恵器のように同地域で規格の似通った高坏が出土しないことから、土師器が在地生産であることが予想される。菊塚古墳で出土した高坏は、調整方法や胎土が類似している上、坏部・脚部の内外面には同様の灰色付着物が確認できる点などを勘案すると、同一地域で生産されたと考えられる。坏部の形態、坏部と脚部の接合方法など製作技法の違いが初葬と追葬の時期差を考える要素になる可能性も否定できないが、それらからの判断は難しい。また、出土位置は玄室の床面直上で9点が出土し、右袖付近で8点、玄室中央付近で1点出土している。A類が7点中6点右袖付近から出土している。層位的には床面直上と床面上層両方から出土している個体が多い。右袖付近では、B類の高坏は右袖付近から2点しか出土していないが、右袖の壁際でA類の土師器と重なり合う状況の中で下層から出土している。このことから、B類はA類と同時期、もしくは若干古い時期の可能性もある。土師器が横転し、重なり合う状況から片付け行為によるものとも想定できるが、体部より上部を欠く横瓶(32)と同じ場所で出土していることから、同時期に片付けられたのだろう。型式や接合技法からの判断は香川県での編年が組み立ておらず困難であるが、出土位置からは土師器の先後関係が多少なりとも把握できると考える。

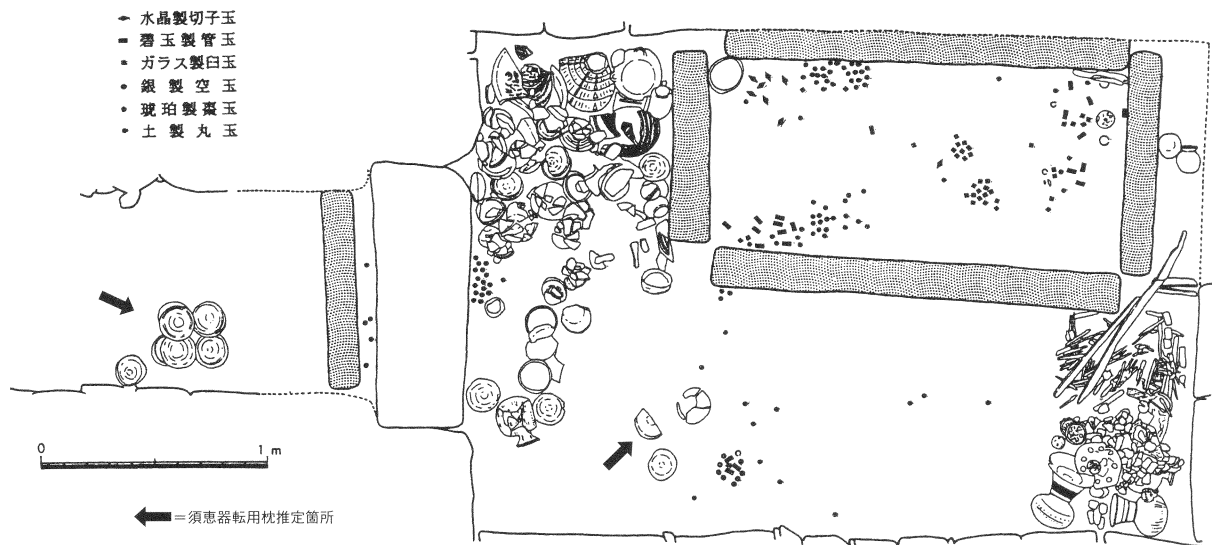
また、土師器の埴が床面上層から出土し、中には土製丸玉が35点入っていた。土師器という枠組みの中での祭祀としては興味深い資料である。

菊塚古墳に前出すると想定される王墓山古墳では土師器は壺が2点のみの出土であり、高坏の大量副葬はこの地域でも菊塚古墳が特異な様相といえる。

【須恵器について】 壺(26)・(30)は、他の器種より形式的に新しく、出土位置が原位置を保っていると考えられる坏付近で底部の破片が集中して出土していることから、初葬ではなく、追葬時期の副葬品と考えられる。また壺(25)・(27)は、玄室床面直上の右袖付近で土師器とともに横転している状態で出土し、床面上層でも複数の破片がみられることから、初葬に伴う遺物で追葬に伴う片付け行為、もしくは後世の攪乱により出土したと考えられる。甕は文様を施さず口縁部が内湾するものと頸部に文様を施し外反するものの2種類がみられ、甕は頸部の形態や色調、調整方法などから(27)・(28)・(29)・(30)の3分類でき、同様に横瓶も2分類みられる。このように坏身・坏蓋と同様に細分することができ、古墳の構築時期および追葬時期を検討する要素となる。甕は頸部・体部の形状や文様からTK10型式併行期の範囲、甕も頸部の変化からTK10～MT85型式併行期の範囲と想定され、横瓶がTK10型式には出現しTK209型式には消滅することを考えると、平成14年度の報告書では須恵器坏および高坏からMT85～TK43型式併行期の中で菊塚古墳の時期を捉えていたが、昨年度報告書で検討した。

【耳環・玉類について】 耳環は4対8点出土した。このうち、6点までが石屋形内の東側から出土しており、東側が頭部であった可能性が高い。このことは玉類も同様の分布傾向を示すことから首肯できる。石屋形内の玉砂利は水平堆積をしていないこと、均一に分布していないことからかつて床面としては機能していないと考えていたが(海邊2003)、再考する必要がある。また、石屋形内だけで複数回、追葬が行われた可能性も考慮しなければならない。一方、(33)・(34)の出土状況も葬送儀礼の復元に有効である(第30図●部分)。出土須恵器のあり方も勘案すれば、この周辺の遺物は追葬時の状況を保っていた可能性が高い。玄室部の棺体配置を考えた時、耳環の入っていた須恵器が枕となっていた可能性もある。

須恵器転用枕の出土例は岡山県北部から山陰地方にかけて散見される。この地域では古墳時代中期末頃(TK47型式期)から出現し、後期前葉(MT15～TK10型式期)まで存続すると考えられて



第35図 王墓山古墳石室内須恵器転用枕推定図(松本ほか1983に加筆)

いる(豊島2000)。菊塚古墳の追葬時に採用されたということは、香川では、存続年代も若干下ると言える。また豊島氏は、「葬送儀礼の根本に関しては保守性を発揮し、須恵器転用枕という形で枕の使用を継続させた」としている。菊塚古墳に先行する王墓山古墳の追葬について、同様の視点で遺物の出土状況を見てみると、須恵器転用枕の可能性が高い須恵器がある(第35図矢印部分)。図上による検討だけで安易に結びつけるのは慎むべきであるが、今後、四国島の他の類例も集成し、再度葬送時における枕使用について考えてみたい。

玉類は石屋形内、玄室内ともに分布している。層位的にも床面上層から床面直上まで出土しており、平面的な分布の検討から棺体配置が復元できる可能性がある。耳環の出土状況とも併せて考えてみる必要がある。玉類の出土位置は、石屋形内が東側、玄室内では石室中軸よりも南側から多く出土している。今回の報告は、整理が完了した一部のみ掲載のため、出土位置の検討までは出来なかった。さらに整理・検討作業を進め、すべての玉類の出土状況を把握した上、他の遺物の出土状況とも併せて、棺体配置などの検討を行っていきたい。

付章2 菊塚古墳の石屋形に用いられた石材

遠藤 亮

第1節 はじめに

古墳時代後期、6世紀中頃に築造されたと推定される菊塚古墳は、善通寺市善通寺町有岡地区に位置している。菊塚古墳玄室の整備調査が、善通寺市教育委員会によって平成15年から16年にかけて行われた。

調査に伴い検出した石屋形に用いられた板石を初見した時、善通寺町尾崎の王墓山古墳の玄室から出土したものと同質の岩石と直感した。

石屋形は両袖式横穴石室の奥壁側に据えられていて、この形式は熊本県の肥後地方を中心に分布した古代葬送と関連したものである。このことから石屋形の存在は、菊塚古墳の性格を考える上で大きな意味を持つものといえよう。

石屋形板石の石材の種類は、火山活動に伴う砕屑岩の中では含有する角礫の規模から火山礫凝灰岩に属するものである。しかし、さぬき市付近に分布する酸性の白色凝灰岩とも、土庄町で採石される塩基性の黒色凝灰岩である豊島石とも岩質が異なっていた。

王墓山古墳や菊塚古墳の石屋形の石材を選択した古代人は、この岩石に何の関心と拘りを持ち、またどこから入手したのであろうか。小稿では岩質の検討を通じて採石地の比定を試みてみたい。

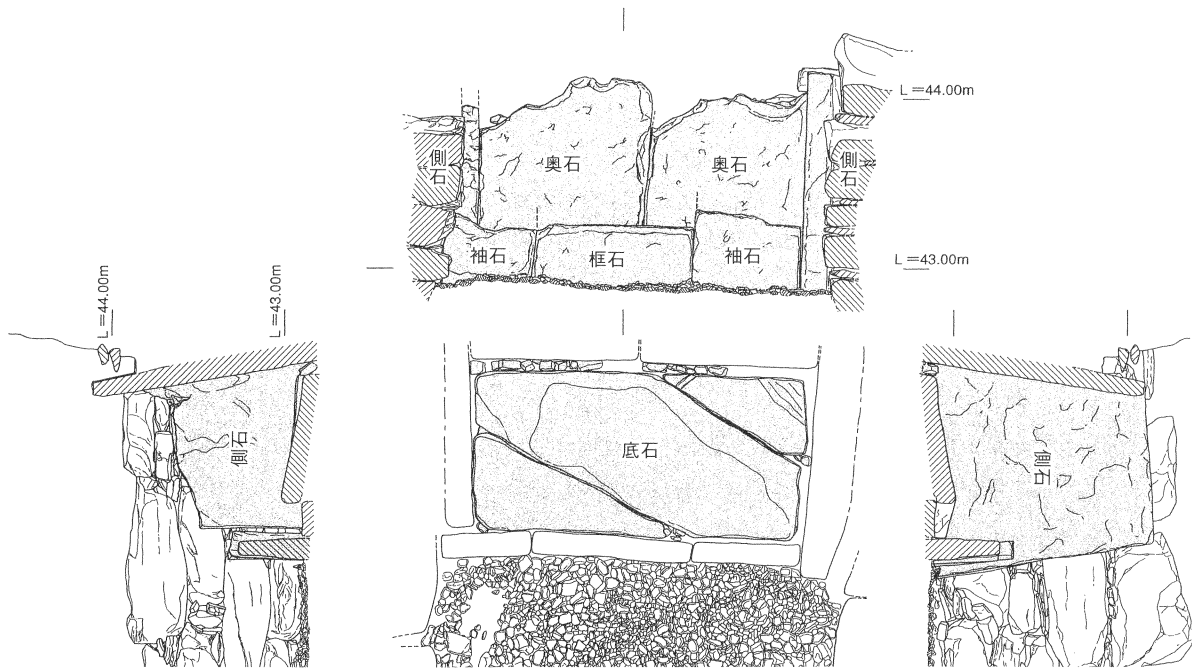


第36図 玄室内の石屋形

第2節 石屋形について

【石屋形の構成】 石屋形は古墳時代の横穴式石室(玄室)内の奥壁面や側壁面に、添うように設置されている埋葬施設の一形態と考えられる。基本的に第37図のような部分で構成されている。すなわち、奥石と左右の側石、前石の袖石・框石を組み合わせ、その上に屋根石を乗せるのが通有である。正面方向から各部の形態を上部・下部の形態ごとに分けると第37図のようになる。

横穴式石室の奥壁に接して据えられている菊塚古墳の石屋形は、下部は袖石と框石で構成されている。屋根部は既に崩壊し不明であるが、残された転落石などから板状であったと推測される。



第37図 石屋形各部の名称

善通寺市教育委員会発行の『埋蔵文化財発掘調査報告書8』から石屋形の規模を計測値で見ると、左側壁は残っているが右側壁は上部を欠損している。完存している左側壁は床面からの高さ123cm、上面での長さ116cm、幅19～16cmを測る。2材を組み合わせで構成されている奥壁上面はそのほとんどが欠損していて、残存部分での床面からの高さは122cm、幅は16cmを測る。石屋形袖石は框石を挟むように2個の板石からなる。本来は石屋形の屋根石に達していたと推察される袖石は下側3分の1ほど残し欠損しているが、右側袖石の長さは約52cm、幅13cmを測り、左側袖石は長さ約61cm、幅約10cmである。框石は床面からの高さ約37cm、長さ約92cm、幅10cmを測る。底石は3枚の板石からなる(海邊・渡邊ほか2003)。

石屋形は古墳時代の横穴式石室に家形石棺を持ち込んだものを祖形とし、石棺の平入面に横口をもつことから始まったといわれている。つまり、石屋形という新たな「棺」を取り込むことで、従来の家形石棺に横口を付けた、いわゆる「開かれた棺」が登場したことにより、石室(玄室)内に遺体を安置する新たな「棺」空間が設けられたのである(藏富士1997)。

【九州肥後地方の石屋形】 石屋形を有する横穴式石室は、6世紀前期頃から肥後地方の菊地川流域と白川流域に集中して設けられ両地域内に40例以上が分布している。

肥後地方の石屋形をもつ横穴式石室の内部は、赤・青・緑・黒色などの原色を用いた幾何学模様や葬送に関する絵画などによって覆われている場合を多く見掛ける。その華麗さはそこに納められた地方の首長の権威を象徴したものと、死後からの再生を願う表れとも解されるものである。このような絢爛豪華そのものの模様や絵画の石室の中に、石屋形が融合しているように納められている。

肥後地方の石屋形の石材として使用している岩石は、地域により各種にわたっている。菊地川上流・中流および支流地域と宇土半島地域は「凝灰岩」(阿蘇系の溶結凝灰岩)を使用するのが通例のようである。そして白川水域の熊本平野(西部・東南部)は「安山岩」、熊本県南部の八代地方は「砂岩」を使用するというように地域性が見られる(古城1995)。各地域とも古墳が位置する近辺

に分布する岩石を用いている。

熊本県の肥後地域では、6世紀中頃を境として石屋形は地域的な拡散が見られ、その様式や形式面で菊地川流域と白川水系の両地域相互間を中心に交流が活発になったことが推測されている(古城1995)。

この交流期と菊塚古墳が築造され石屋形を導入した時期がほぼ重なってくるのは、偶然的な歴史事象であろうか。王墓山古墳が6世紀前半、菊塚古墳が6世紀中頃の築造とされていることとも関連して興味があるところである。特に菊塚古墳の石室構造のうち袖部の石材が基底石より大きいこと、袖部の石が内側にせり出していること、羨道の幅が狭いことなどの特徴は、いずれも九州系横穴式石室の特色とされている。

石屋形の存在とともに九州地方との関連性が問題になってくるのである。

菊塚古墳や王墓山古墳の石室の内部は、積み上げられた灰色や黒色の「讃岐岩質安山岩」が主体で構築されている。菊塚古墳では、他に凝灰角礫岩を2石と閃緑岩質花崗岩を1石使用している。この岩石は硬度が高く堅固な石材であるが、灰色と黒色の暗色のためか石室内部の暗い環境を強調しているようである。

このような内部状況の中で、遺体を覆う石屋形は注目される存在である。それは石屋形の石材がもつ白色に近い明度の高い火山礫凝灰岩の存在である。この色調は、石室内の暗さの中で特別な意義を強調しているかのようである。この火山礫凝灰岩は白色に近い色彩とともに、含有している角礫は1～2mmの粒揃いで凝縮し、緻密な結晶で注目されるものである。この岩石は香川県下での分布は少なく、存在を確認するには小範囲の限定地域を精細に調査する必要がある。

第3節 石屋形石材の岩質

本節では岩質の検討を行うが、その前に用語の定義を整理しておく。

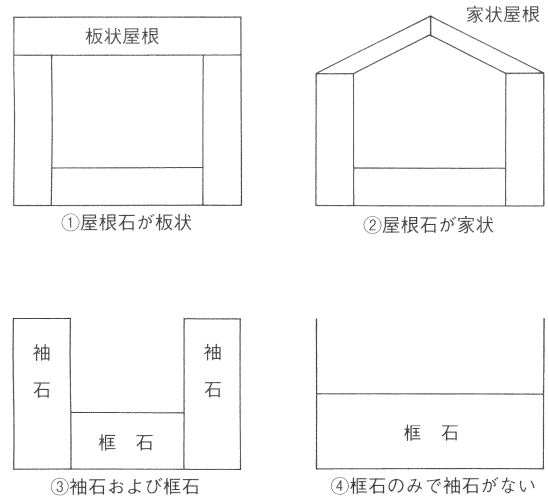
火山角礫凝灰岩：1mm以下のシルト(泥)かガラス質の基質に、2～6mmの細粒の火山礫岩を多く含む火山碎屑岩。

凝灰角礫岩：1mm以下のシルト(泥)かガラス質の基質に、火山礫凝灰岩より粒径が大きい中粒(粒径4～64mm)の火山礫岩を含む火山碎屑岩。

基質：凝灰岩や砂岩など、大きな粒子(角礫)とその粒間を埋める小さな粒子からなる時、小さな粒子の組織を基質という。粒子はシルト(泥)か、溶結が進んだガラス質の場合が多い。

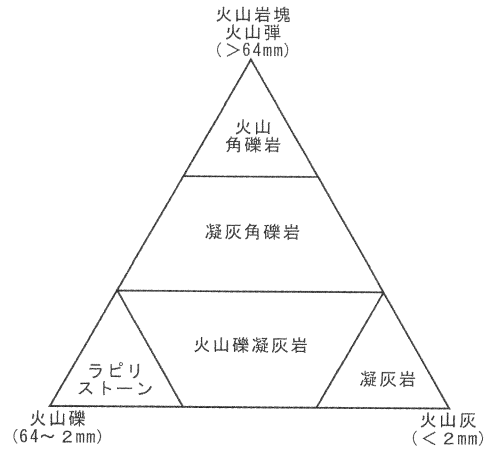
層理：堆積過程での粒子の変化などによって生じる成層構造である。地層となる堆積物が休止期間をはさんで断続的に定着するため形成された層状が、粒度や構成粒子の急変で示される。

菊塚古墳に納められている石屋形の石材である板石は、以下のような特徴をもっている。

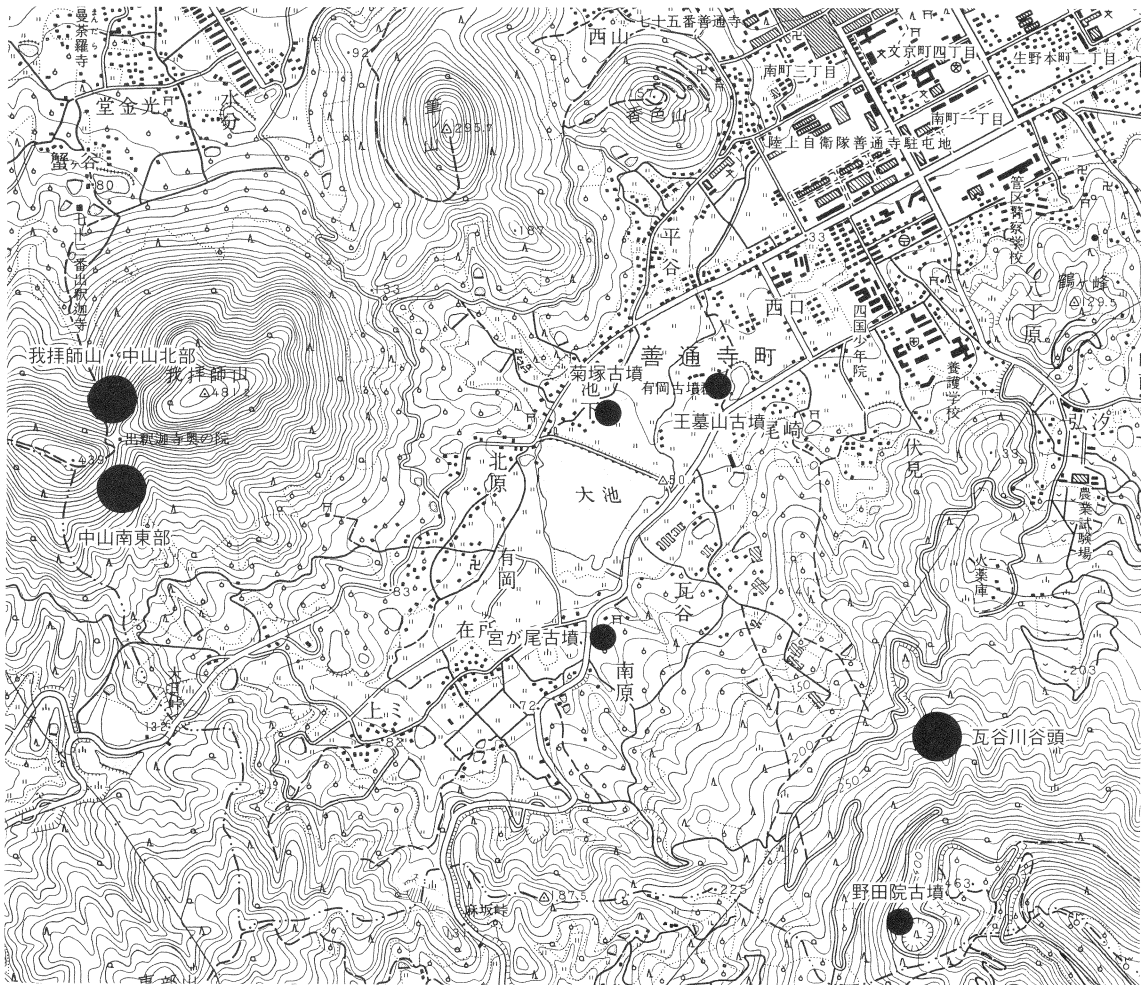


第38図 石屋形各部の形態

- ①色調は全体に灰白色をした凝灰岩で、造岩時に熱水による影響で酸性化を受けたと推測される。
- ②火山活動に伴う火山碎屑岩の中で、含有される火山礫の粒径が2～6mmであるものは、火山礫凝灰岩に分類される。石屋形の石材である火山礫凝灰岩に含まれる火山礫の粒径は1～3mmを主としている。石質は讃岐岩質安山岩(灰白色)を主体として、僅かに長石・石英を含む。
- ③讃岐質安山岩の角礫の間を埋める基質部分が少なく、火山灰質や溶結性ガラス部分の発達が僅かである。香川県下の火山碎屑凝灰岩の基質部分は、火山活動で排出された火山灰や礫などが熱水などの加熱を受けガラス化され溶結状態になっている場合が多い。しかし、菊塚の板状石の火山礫凝灰岩は基質部分が少なく溶結が僅かである。その理由として一次段階の火山活動で粉碎された安山岩の細粒が、二次的段階で一定地域に流入堆積し、地圧などによって集結凝固したと推測できる。
- ④風化による酸化現象で、岩石の表面が「鉄錆色」や「橙色」に染まる場合がある。



第39図 粒径による火山碎屑岩の分類(Fisher 1966より)



第40図 石材採石推定地周辺分布図

第4節 採石地の推定

菊塚古墳石屋形の石材は、

- ①包含する火山礫は讃岐岩質安山岩を主としている。
- ②粒径が1～3mmの細粒が集結した凝灰岩である。
- ③基質部分が僅かである。

という特徴を有する火山礫凝灰岩であり、極めて限られた地域での分布が予測できる。王墓山古墳と菊塚古墳という近接した2箇所のみで使用されているという条件を踏まえ、本節では採石地域の推定作業を行う。香川県地質図(斉藤1962)からの讃岐質安山岩を含む凝灰岩の分布地域の選出と現地の踏査調査によって選定したのが、我拝師山・中山北部地域、中山南東部地域、大麻山北西部地域の3地域である(第40図)。以下、順に詳細を記述する。

[我拝師山・中山北部地域]

四国遍路73番札所出釈迦寺から南西方向へ急傾斜の参道を約1km登る我拝師山北側中腹に奥の院禅定寺がある。寺直下の標高約300mの谷部付近に凝灰角礫岩の露頭が続く。この岩石の基質は灰色シルトがガラス化したもので、そこに灰色と一部黒色の讃岐質安山岩の角礫が多量(60%以上)混入したものである。火山礫の大きさは中粒(4～64mm)であるが、僅かに10～20cmの岩礫が混じっている。讃岐質安山岩は付近の弥谷山周辺に分布する岩質に類似するものである。

凝灰角礫岩に比べ僅かであるが、火山礫凝灰岩も存在する。灰色・白色の安山岩と軽石の火山礫が集積した火山礫凝灰岩で、礫の間を埋める基質の充填部は少なく菊塚古墳の板石に共通している。しかし、基質部分が橙色に酸化している特徴はこの地域のほうが顕著である。

[中山南東部地域]

禅定寺の山門を出ると直ぐに中山(標高439m)への山稜鞍部があり、そこから南西方向に中山の中腹を廻り込むように下る小道が続く。約300m程下ると道脇に層状に堆積した凝灰岩の露頭が連なる地点に行き着く。堆積層は露出部分だけでも10層以上確認でき、堆積層の厚さは約30～60cmである(第41図)。

石質は火山碎屑岩に属し、凝灰角礫岩の層と火山礫凝灰岩が層理を形成している。火山礫凝灰岩は、灰白色(一部黒色)を主とした讃岐石質安山岩の火山礫(粒径1～3mm)が主体をなしている。基質部分の発達はほとんど見られず、細粒礫が集積した菊塚古墳の石屋形石材に共通するところが多い。ただ礫の大きさは約10mmのものが混じる層があり、菊塚のように粒径が整ったものとはいえない(第43図)。

[大麻山北西部地域] <瓦谷川の谷頭部>

大麻山(標高616.3m)山頂から北西部方向1km付近に谷頭をもつ瓦谷川が下っている。細形銅剣や平形銅剣などの出土で知られる瓦谷川の谷地形を遡ると、中流付近から上流にかけて所々に火山礫凝灰岩の白い石片を見つけることができる。その谷頭付近(標高約340m)を中心に火山礫凝灰岩の分布跡を示す石塊や白い崩壊土の堆積が見られるが、河川侵



第41図 中山南東部の凝灰岩堆積層の露頭

食によって凝灰岩の堆積層を特定することは困難である(第42図)。

この瓦谷川谷頭地域の火山礫凝灰岩は、灰白色(一部黒色)を主とした讃岐岩質安山岩と僅かに花崗岩の角礫を包含している。火山礫の粒径は1～4mmで粒子の規模は揃っている。

このように火山礫の規模(粒径)が揃っていること、基質部分が少ないこと、部分的に鉄錆色の酸化が見られることなどから、菊塚の板石と共通していることが多い。さらに微細粒0.2～0.3mmの黒色讃岐岩(サヌカイト)が混入しているのも同じである。ただし瓦谷では、基質部分の溶結化が僅かに見られる。



第42図 瓦谷川の石塊や白い崩落土

第5節 石材産地の比定

石屋形石材の火山礫凝灰岩の所在を踏査によって、以上の3地域を石材産地と推定した。その観察結果をまとめたものが第8表である。

次に菊塚古墳の石材と採石対象地に仮定した3地域の岩種・石質を、次の4項目で対比する。**【火山礫凝灰岩の分布地域】** 石屋形の石材は火山碎屑岩のなかでも、包含する角礫の粒径が1～3mmであることから「火山礫凝灰岩」に分類できる(第39図)。この岩石については調査対象(採石仮定)の3地域とも、その存在が認められる。しかし、我拝師山・中山北部地域と大麻山北西部については分布の絶対量が少なく、現在その堆積層を確認することはできず、谷筋などで火山礫凝灰岩の岩礫を散見できるに過ぎなかった。しかし、板石を採石したのが約1400年前の古墳時代後期であるという歴史的経過を考慮すると、凝灰岩の堆積層が自然侵食により崩壊したことが考

第8表 地域別火山礫凝灰岩

特徴	地域	菊塚古墳石屋形	我拝師山・中山北部	中山南東部	大麻山北西部 (瓦谷川谷頭地域)
火山碎屑岩の種類		火山礫凝灰岩	凝灰角礫岩が大部分 火山礫凝灰岩は少ない	火山礫凝灰岩と凝灰角礫岩の堆積層が層理を形成	火山礫凝灰岩
包含火山礫		讃岐質安山岩と一部軽石	讃岐質安山岩と一部角閃安山岩、軽石	讃岐質安山岩	讃岐質安山岩と一部花崗岩
粒径・粒子の状態		1～3mm 粒子が揃っている	1～10mm 粒子がやや不揃い	1～10mm 粒子が不揃い(層理によって違いがある)	1～4mm 粒子が揃っている
基質部		礫間の充填部は少ない ガラス質の溶結部分が僅か	礫間の充填部は少ない 溶結性は少ない	礫間の充填部は少ない 溶結性は少ない	礫間の充填部が僅かにみられる 溶結部分は僅か
風化の影響(酸化状況)		一部に錆色が染み状に出る	全体に橙色(錆色)に染まる	一部に橙色(錆色)の染みが出る	一部に茶色の染みが出る

えられる。

【包含する火山礫】 菊塚古墳の石材は、讃岐岩質安山岩の細粒を主とした火山礫を含んだ凝灰岩である。この石質は3地域とも共通している。また0.2mm以下の「讃岐岩」(サヌカイト)特有の黒色微細粒を僅かに含んでいることも石材の特徴を表していて、この点も3地域で認めることができた。角礫の規模(大きさ)とその包含状況は、菊塚の場合は粒径が1～3mmの礫で大小のばらつきは少ない(第43図)。中山南東部は、粒径1～10mmで粒子のばらつきがある。しかし、この地域は凝灰岩層が10層以上の層理をなしており、火山礫凝灰岩の数層総ての調査は出来ていない。他の2地域は菊塚の石材と類似している。

【基質部分の少ない凝灰岩】 菊塚古墳の石屋形の石材を特徴づける最も注目できることは、粒径が揃った灰・白・黒色の火山礫が緻密に凝縮した状態で構成されていて、礫間の基質部分が僅かなことである。ただし2.5倍以上に拡大した場合には、僅かであるが溶結したガラス状部分が見られることがある(第43図)。この特徴は3地域とも共通しているが、瓦谷川地域の場合は基質部に少し溶結部分が残る場合がある。このように礫間の充填部が見られない凝灰岩は、香川県下では類例が少ない。

【風化による部分的な変色】 菊塚古墳の石屋形の表面には、鉄錆色の着色が部分的に残っている。同様の着色は、火山礫凝灰岩分布地の岩石中に橙色や鉄錆色に着色している箇所が見られる。このことは、岩石が含む鉄分の酸化現象である可能性が高く石屋形の石材を決める一要素と考えている(第43図)。

以上のように菊塚の石屋形の石材と3地域の火山礫凝灰岩には共通する要素が多く、古墳築造に際して、これらの地域の中から採石された可能性が高い。特に現在も火山礫凝灰岩の堆積層が露出している中山南東部は、注目すべき地域であろう。それは幅30cmから60cmという層理に沿った採石が可能という判断によるものである。約1400年に遡る歴史的経過による地形の変化・変遷を考えると安易な即断は慎むべきだが、今後の調査研究を進めていく上での問題提起としたい。

第6節 おわりに

古墳時代後期の古墳築造に際して、宗教習俗と思われる「石屋形」の葬送様式を用いたのは九州肥後の首長たちであった。6世紀中頃、習俗様式を導入した菊塚古墳に祀られる首長や同族の進取な背景に関心がもたれる。

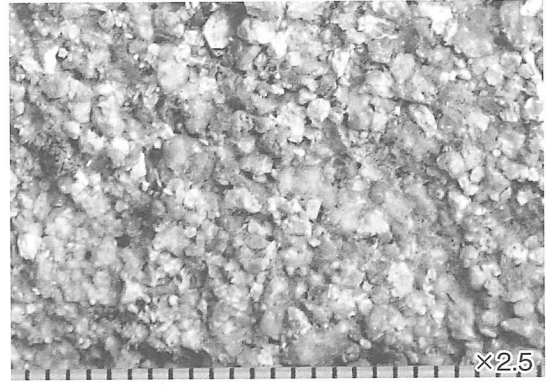
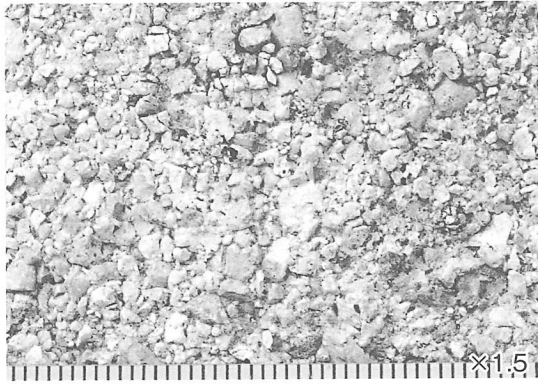
さらに石材の選定に際しても当時、組合せ石棺などに用いた讃岐岩質安山岩(古銅輝石安山岩)の板石でなく、限られた地域しか分布しない、特殊ともいえる「火山礫凝灰岩」を用いたことも注目できる。灰白色で細粒の火山礫が密に集結した“廉潔さ”さえ感じられる、この凝灰岩を選び出した古代人の感性に当時の葬送観が見える。

前方後円墳の玄室奥壁前に置かれた木棺(推定)の障壁材に相応しい石材とした古代人の拘わりが伝わってくる。

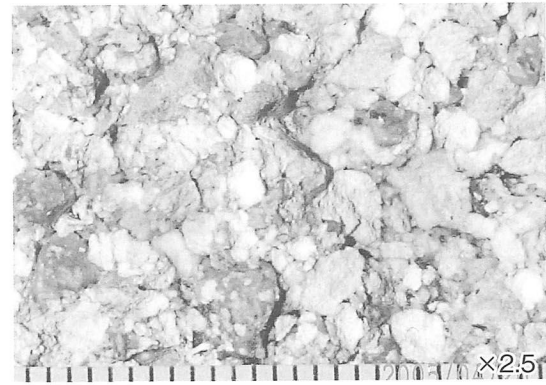
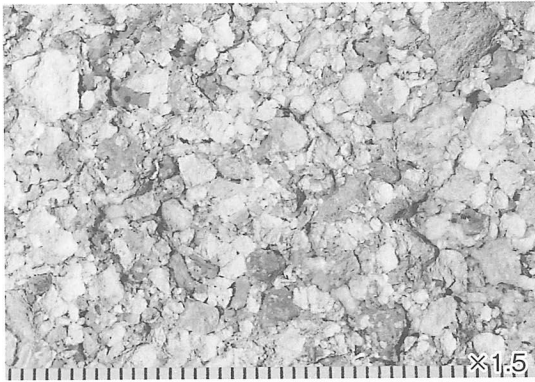
【引用・参考文献】

- 池田栄史 1982「石屋形の成立とその系譜」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』森貞次郎博士古稀記念論文集刊行会
- 海邊博史・渡邊淳子ほか2003『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8』菊塚古墳・三井遺跡 善通寺市教育委員会
- 藏富士 寛 1997「石屋形考 - 平入横口式石棺の出現とその意義 - 」『先史学・考古学論究』II 熊本大学文学部考古学研究室創立25周年記念論文集 龍田考古会
- 古城史雄 1995「九州における横穴式石室の様相 - 石屋形を中心として - 」『横穴式石室にみる山陰と九州』「古代の出雲を考える」8 出雲考古学研究会
- 齊藤 実ほか1962『香川県地質図』香川大学・内場地下工業株式会社
- 豊 遙秋・青木正博 1996『鉱物・岩石』保育社
- Fisher. RV. 1966『Mechanism of deposition from pyroclastic flows, Amer. J.』

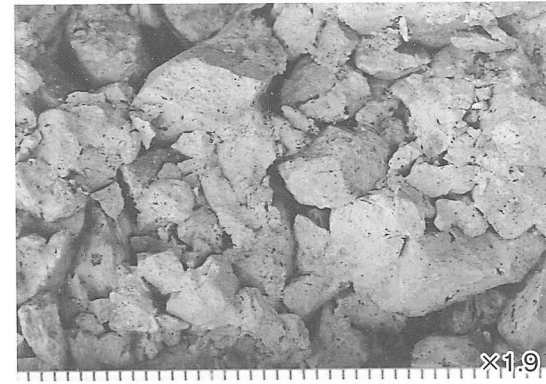
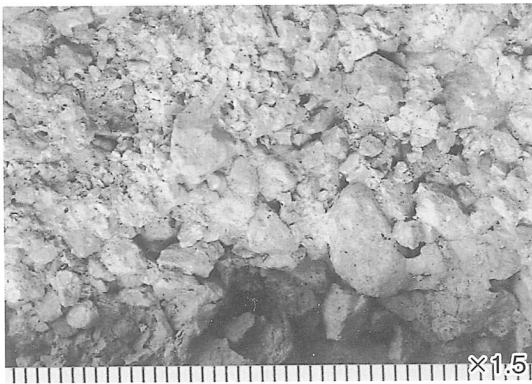
〔菊塚古墳石屋形石材〕



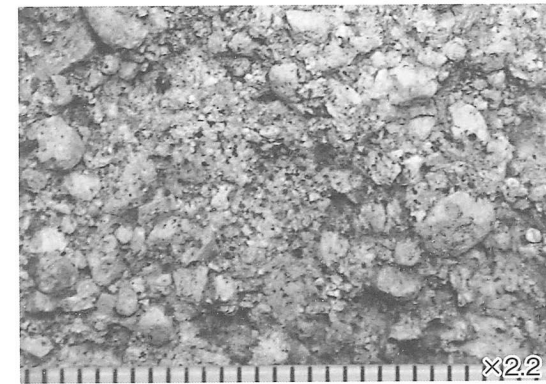
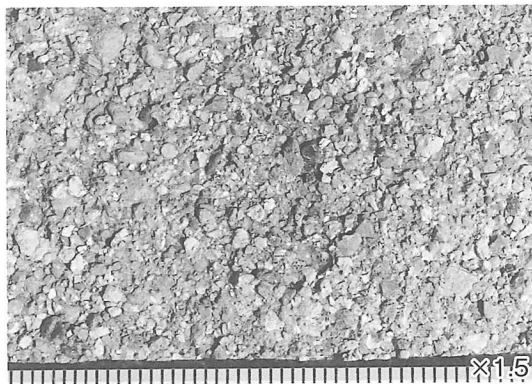
〔我拝師山・中山北部〕



〔中山南東部〕



〔瓦谷川谷頭部〕



第43図 地域別火山礫凝灰岩標本写真

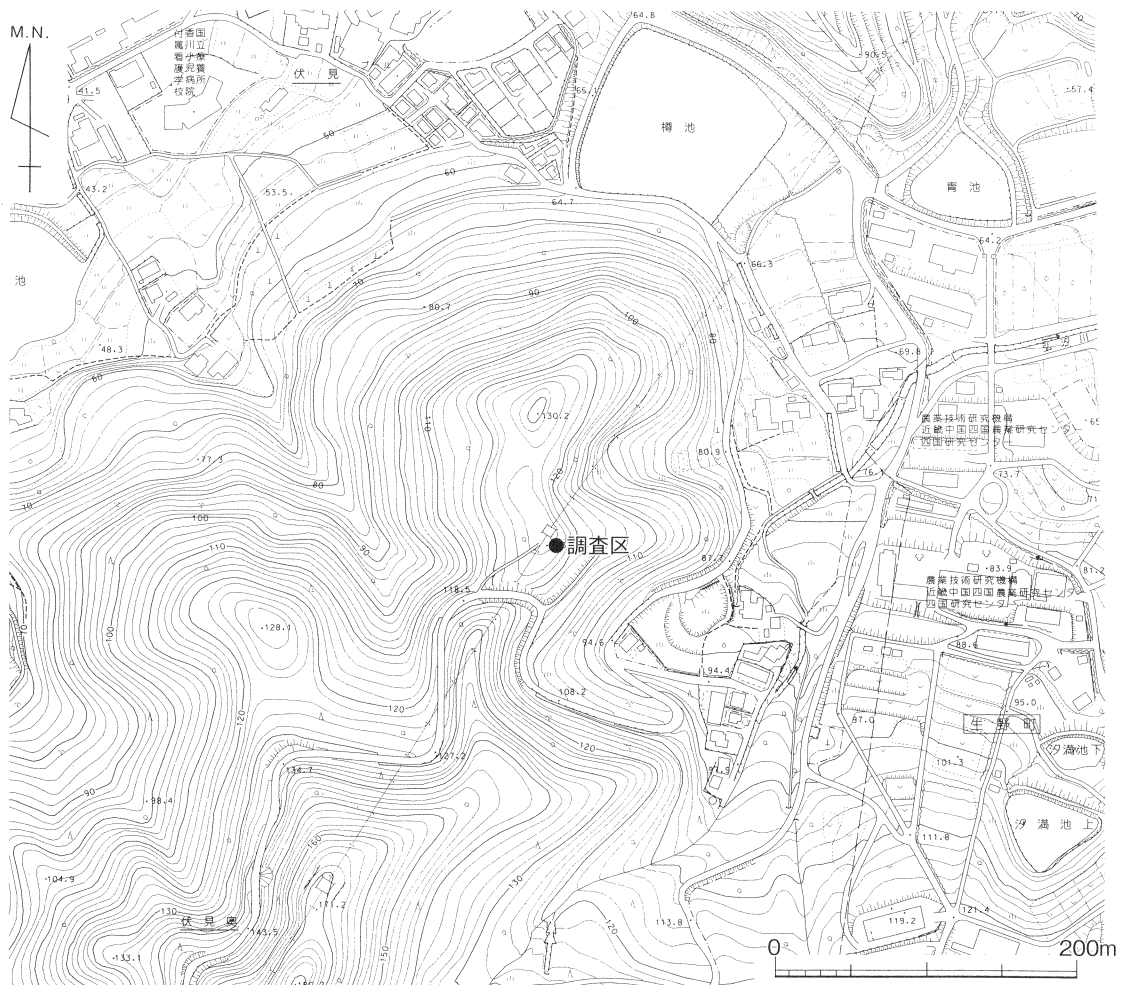
第6章 樽池西手山頂墳3号

第1節 調査の経緯と経過

樽池西手山頂墳3号は、大麻山から北西に派生する尾根上に立地する。周囲は「伏見奥古墳群」と称し、かつては横穴式石室を主体にもつ小規模な円墳が群集している状態であったが、開墾等で現在はその殆どが消滅している。近年隣接する尾根で開発行為が進んでいることから、現存している古墳の把握が必要であると考え、本年度調査を実施した。

調査期間は、平成17年2月10日～同年3月10日にかけて行われた。今年度は主体部(石室)の発掘調査と古墳周辺の墳丘測量を中心に行った。現地調査は、市教育委員会担当者を調査員として、奈良大学考古学研究室学生および四国学院大学考古学研究部学生が参加した(個別氏名は例言に記した)。発掘調査では古墳終末期における無袖の横穴式石室を検出した。遺物は須恵器・土師器、鉄釘、人骨2体が出土している。

なお、調査が年度末に実施され来年度は引き続き前庭部の調査を実施する予定であることから、詳しい報告は来年度の調査成果とあわせて行うこととする。



第44図 調査区位置図(1:5,000)

【主要参考文献】

- 安藤文良編1974『古瓦百選』讃岐の古瓦 美巧社
- 安藤文良1987「歴史時代・古瓦」『香川県史』第13巻資料編考古 香川県
- 井上和人2003「古代土器製作技法考再説－近畿地方の瓦器椀・土師器杯類と丸底甕－」『文化財論叢－奈良文化財研究所創立50周年記念論文集－』Ⅲ
- 海邊博史2002『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7』 旧練兵場遺跡・四国学院大学構内遺跡・菊塚古墳 善通寺市教育委員会
- 海邊博史・渡邊淳子ほか2003a『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8』 菊塚古墳・三井遺跡 善通寺市教育委員会
- 海邊博史・渡邊淳子ほか2003b『四国学院大学構内遺跡発掘調査報告書』 善通寺市埋蔵文化財発掘調査団・善通寺市教育委員会
- 海邊博史・渡邊淳子ほか2004『善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9』 菊塚古墳・善通寺市旧境内・善通寺陣所跡・旧連兵場遺跡 善通寺市教育委員会
- 香川県教育委員会2003『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』
- 香川県教育委員会2005『香川県の近代化遺産－香川県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書－』
- 片桐孝浩1992『川津元結木遺跡』中小河川大東川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 香川県教育委員会
- 片桐孝浩2002『原間遺跡Ⅰ』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第39冊 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 川畑聰1996『讃岐の古瓦展』 高松市歴史資料館
- 國木健司1993『生野本町遺跡発掘調査報告書』 香川県教育委員会
- 笹川龍一1983『五条遺跡発掘調査報告書』 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1985『彼ノ宗遺跡』弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1986『仙遊遺跡発掘調査報告書』旧練兵場遺跡仙遊Ⅰ地区 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1988『九頭神遺跡発掘調査報告書』 九頭神遺跡発掘調査団・善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1989a『稲木遺跡』県道西白方善通寺線樑敷踏切除却工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 稲木遺跡発掘調査団
- 笹川龍一1989b『仲村廃寺』 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1991『月信遺跡』県営畑地帯総合整備事業善通寺西部地区碑殿農道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 月信遺跡発掘調査団
- 笹川龍一1992『史跡有岡古墳群(王墓山古墳)保存整備事業報告書』 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1993a『御館神社古墳発掘調査報告』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1993b『史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)調査報告』史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業に伴う発掘調査報告書 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1993c『永井遺跡発掘調査報告書』都市計画道路大通線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 善通寺市埋蔵文化財発掘調査団
- 笹川龍一1994『青龍古墳発掘調査報告書』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1995『九頭神遺跡・宮が尾古墳隣接地調査報告書』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一・杉山 洋1996『香色山山頂遺跡群発掘調査報告書』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4 善通寺市教育委員会

- 笹川龍一ほか1997『史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業報告書』善通寺市教育委員会
- 笹川龍一1999『山南遺跡・彼ノ宗遺跡発掘調査報告書』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 善通寺市教育委員会
- 笹川龍一2001『鉢伏山北東麓遺跡群・菊塚古墳発掘調査報告書』善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6 善通寺市教育委員会
- 佐藤竜馬2003『生野南口遺跡』香川県教育委員会
- 新編香川叢書刊行企画委員会1983『新編香川叢書』考古篇 香川県教育委員会
- 角南聡一郎ほか2001『旧練兵場遺跡』市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 善通寺市・(財)元興寺文化財研究所
- 角南聡一郎ほか2002『旧練兵場遺跡』特別養護老人ホーム仙遊荘建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 善通寺市・(財)元興寺文化財研究所
- 角南聡一郎2003『讃岐近世～近代の砂糖竈』『民具集積』四国民具研究会
- 善通寺市1977『善通寺市史・第一巻』
- 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
- 中世土器研究会編1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
- 辻 美紀1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』真陽社
- 寺沢 薫1986「論考 畿内古式土師器の編年と二・三ノ問題」『矢部遺跡』奈良県橿原考古学研究所
- 豊島直博2000「枕を用いる葬送儀礼の展開」『古代吉備』第22集 古代吉備研究会
- 西 弘海1979「西日本の土師器」『世界陶磁全集』2 日本古代 小学館
- 西岡達哉編1989『稲木遺跡』四国横断自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊 香川県教育委員会
- 西岡達哉編1995『龍川四条遺跡』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第15冊 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 西岡達哉編1997『旧練兵場遺跡』国立善通寺病院看護学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報第1冊 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 西岡達哉編1998『旧練兵場遺跡』国立善通寺病院看護学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報第2冊 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 廣瀬常雄1994『金蔵寺下所遺跡・西碑殿遺跡』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第10冊 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 藤井直正1983「讃岐国古代寺院の研究」『藤澤一夫先生古希記念論集 古文化論叢』
- 松本岩雄1999『上塩冶築山古墳の研究』鳥根県古代文化センター
- 松本和彦・宮崎哲治2000『雄山古墳群』県道高松王越坂出線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 松本豊胤・森本義臣・東原輝明1983『王墓山古墳調査概報』善通寺市教育委員会
- 松本敏三1987『県道西白方善通寺線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』昭和61年度 善通寺市・香川県教育委員会
- 真鍋昌宏ほか1987『中村遺跡・乾遺跡・上一坊遺跡』四国横断自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 香川県教育委員会
- 真鍋昌宏・渡部明夫1987『矢ノ塚遺跡』四国横断自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査実績報告書第3冊 香川県教育委員会
- 真鍋昌宏2003『山南遺跡』県営住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 森 格也2003『北原2号墳・北原遺跡』県道観音寺善通寺線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘

調査報告 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
森下英治1996『旧練兵場遺跡Ⅲ』平成7年度国立善通寺病院内発掘調査報告 香川県教育委員会
森下英治2001「善通寺市旧練兵場遺跡における弥生土器の編年と地域性の検討(上)」『研究紀要』
Ⅸ 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
安田和文・笹川龍一1984『仲村廃寺発掘調査報告』旧練兵場遺跡内 善通寺市教育委員会
矢原高幸1973『善通寺市の古代文化』 善通寺市
渡部明夫1990『永井遺跡』四国横断自動車道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査実績報告書第9冊
香川県教育委員会

写真図版



1. トレンチ周辺
(北半・南から)



2. トレンチ周辺
(北半・北から)



3. 全景
(北から)

図版2 善通寺旧境内(1次・第2トレンチ)



1. 遠景(北から)



2. 南壁断面(北から)



3. 西壁断面(東から)



1. 全景(南西から)



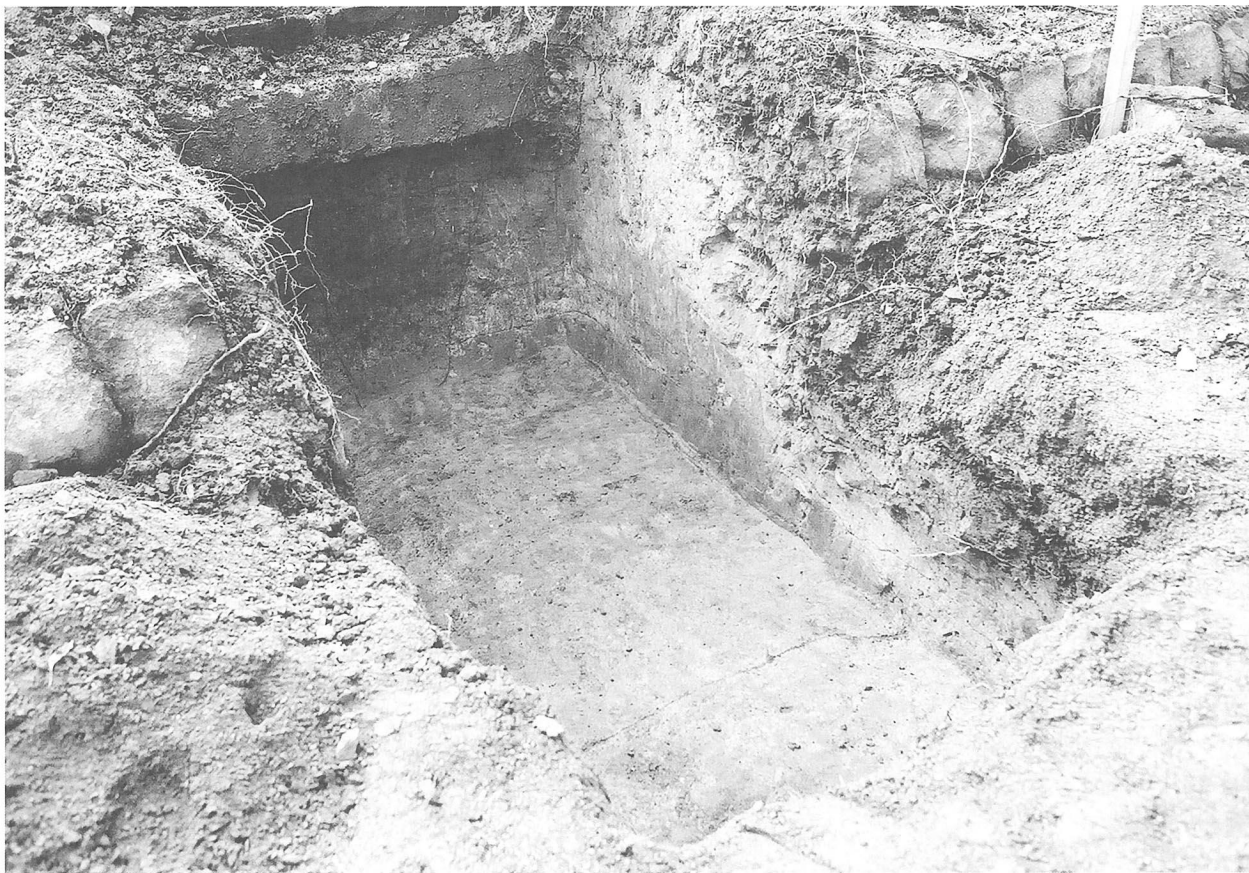
3. 東壁断面(西から)



4. 土手状遺構(西から)



2. 全景(南から)



1. 全景(南西から)



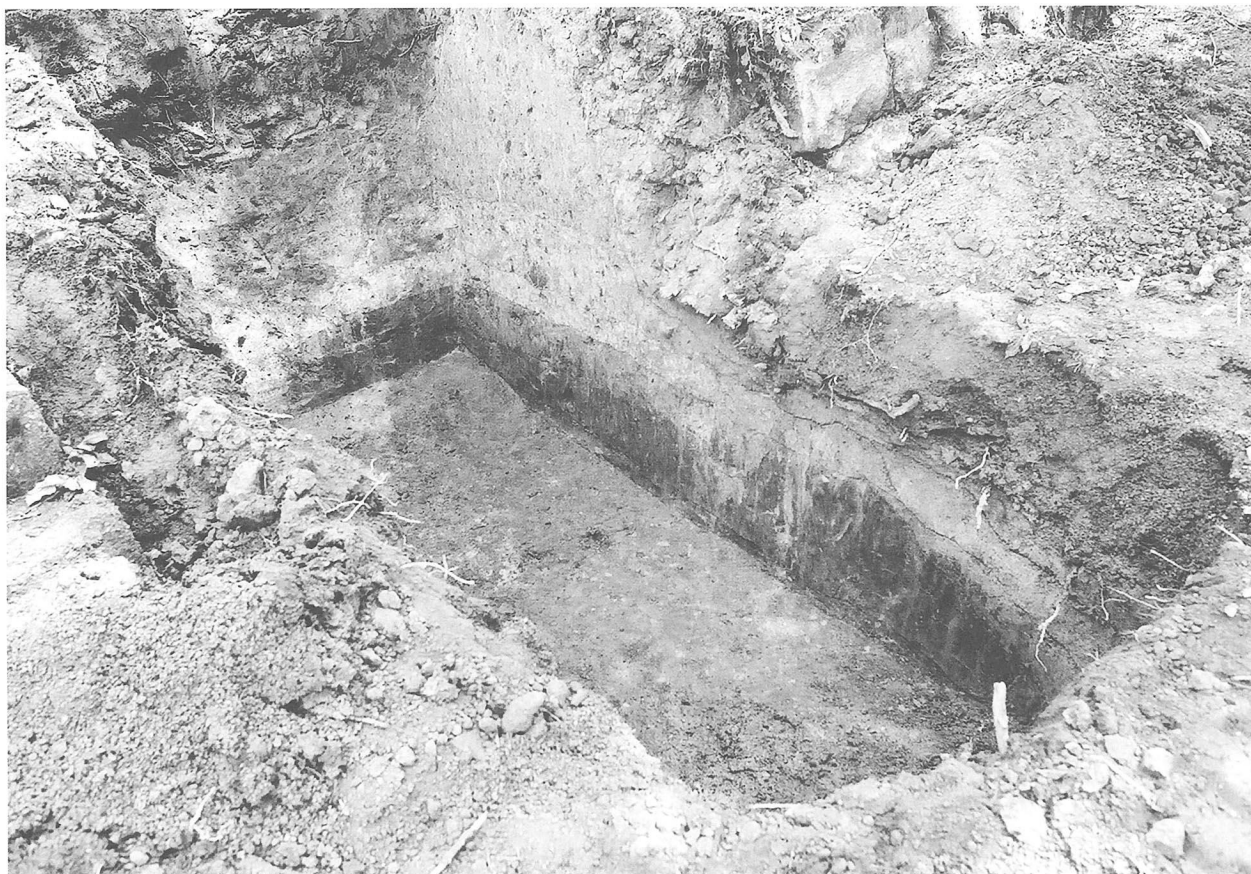
2. 全景(南から)



3. 重機掘削状況



4. 東壁断面(西から)



1. 全景(南西から)



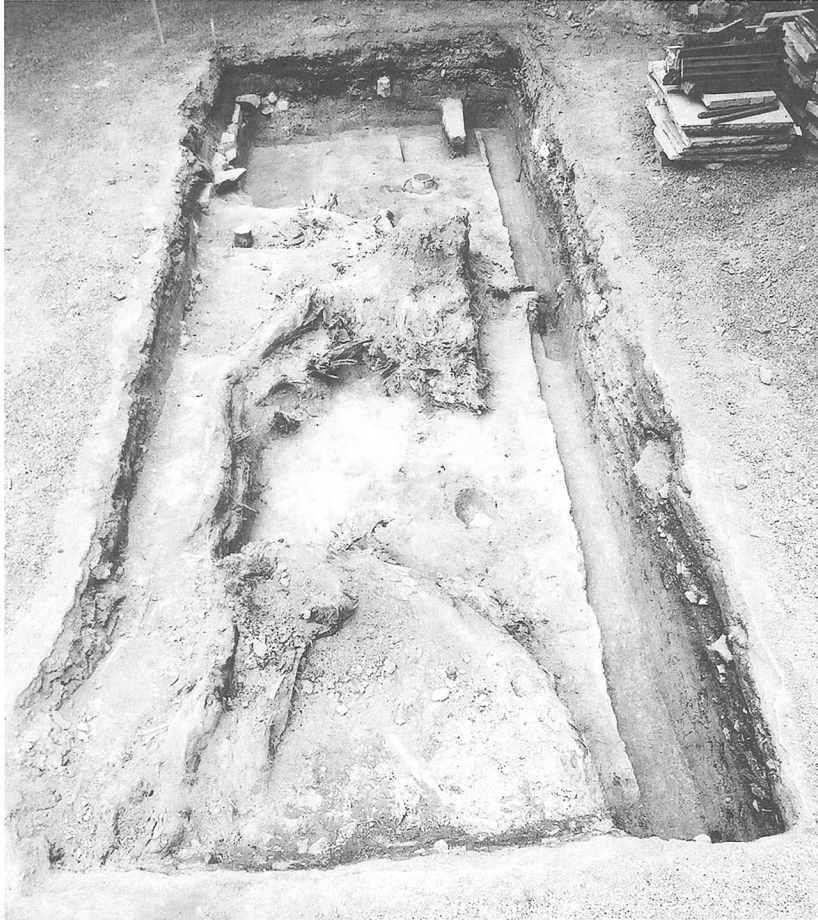
3. 重機掘削状況



4. 東壁断面(西から)



2. 全景(深掘後・南から)



1. 全景(西から)



2. 全景(北から)



3. 東部深掘断面(北から)



4. 調査区遠景(南東から)



1. 調査区西部
(検出状況・北から)



2. 調査区西部
(完掘状況・北から)



3. ピット2(南から)



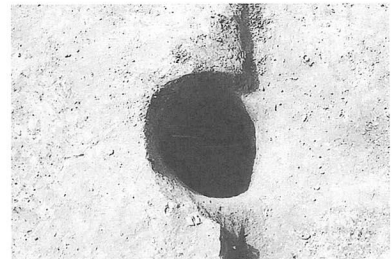
4. 土坑3(北から)



1. 調査区東部
(北から)



2. 調査区東部(西から)



3. ピット1完掘状況(南から)



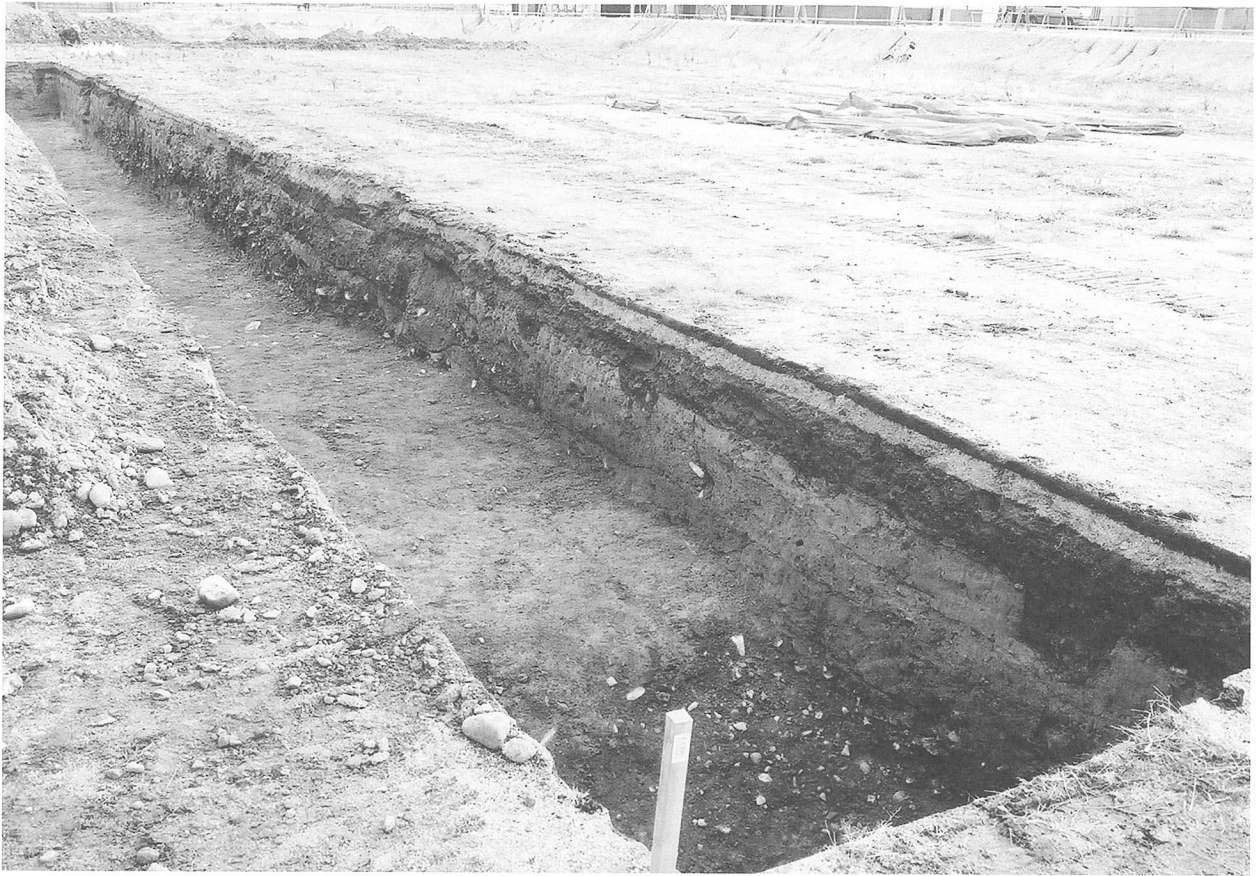
4. 骨蔵器出土状況(南から)



5. 北・東壁石列(南から)



6. 近代土坑断面(西から)



1. 第2トレンチ全景(北西から)



2. 第1トレンチ(南から)



3. 第3トレンチ(南から)



1. 菊塚古墳遠景
(北から)



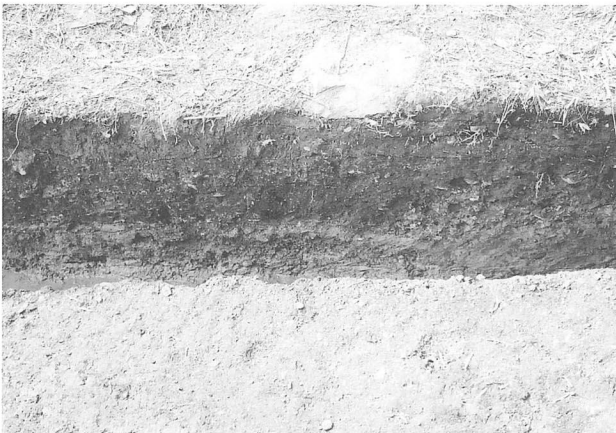
2. 後円部全景
(南から)



3. 後円部全景
(北から)



1. 第1
トレンチ全景
(北から)



2. 第1トレンチ西壁(中央部・東から)



3. 第1トレンチ西壁(北部・東から)



5. 第2トレンチ全景(南から)



4. 第1トレンチ西壁(南部・東から)



1. 砂糖竈検出状況(南から)



2. 砂糖竈完掘状況(南から)



4. 砂糖竈遠景(東から)



3. 砂糖竈断面
(北から)



1. 第3・3'トレンチ全景(南東から)



3. 墳丘裾溝(南西から)



4. 周庭堆積木出土状況(南西から)



2. 全景(東から)



1. 墳丘裾検出状況
(南西から)



2. 墳丘裾完掘状況
(南西から)



3. 南壁断面
(北西から・上は
第3トレンチ)



1. 全景(北東から)



2. 南壁断面
(北東から)



4. 第3トレンチ出土遺物(番号は第22図に対応)



3. 墳丘裾溝(南東から)



1. 土師器 集合



2. 須恵器 集合



1. 須恵器 甗



2. 須恵器 台付壺・甗



3. 須恵器 横瓶



1. 耳環 集合



2. 玉類 集合

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぜんつうじしないいせきはつくつちようさじぎようにともなう まいぞうぶんかざいはつくつちようさほうこくしょ							
書名	善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	10							
副書名	善通寺旧境内 善通寺陣所跡 四国学院大学構内遺跡 菊塚古墳 樽池西手山頂墳3号							
シリーズ番号								
編著者名	渡邊淳子・海邊博史・遠藤 亮・長江真和・田村隆明・米田裕貴子・松村祐香・森田浩史							
編集機関	善通寺市教育委員会 文化振興室							
所在地	〒765-0013 香川県善通寺市文京町二丁目1番4号							
発行年月日	平成17(2003)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぜんつうじ 善通寺 旧境内	善通寺市善通寺町3-5	2048	0002	34°14'35"	133°46'26"	20040422～ 20040423 20040805～ 20040813	16.0㎡	善通寺 市内遺跡 発掘調査 事業 (遺跡確認 調査事業)
ぜんつうじ 善通寺 陣所跡	善通寺市善通寺市3-3-1		0530	34°13'18"	133°46'19"	20040701～ 20040716	37.0㎡	
しこくがく 四国学院大学 構内遺跡	善通寺市文京町3丁目		0515	34°13'12"	133°47'05"	20041203～ 20041210	140.0㎡	
きくづか 菊塚古墳	善通寺市善通寺町字大池東		0012	34°12'35"	133°46'15"	0041101～ 20041130	50.7㎡	
たるいけ 樽池西手 山頂墳 3号	善通寺市善通寺町字伏見奥		0383	34°12'31"	133°46'09"	20050210～ 20050310	8.4㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
善通寺旧境内	寺院	弥生・中世	土手状遺構	弥生土器・瓦 須恵器・土師器				
善通寺陣所跡	寺院	中世	土坑・ピット	瓦				
四国学院大学 構内遺跡	集落	—	—	—		遺構・遺物なし、旧河道		
菊塚古墳	古墳	古墳時代	後円部墳丘裾、 墳丘裾溝状遺構	土師器		近代の砂糖竈検出		
樽池西手 山頂墳3号	古墳	古墳時代	横穴式石室	須恵器・土師器・鉄釘		閉塞石・人骨男女2体分出土		

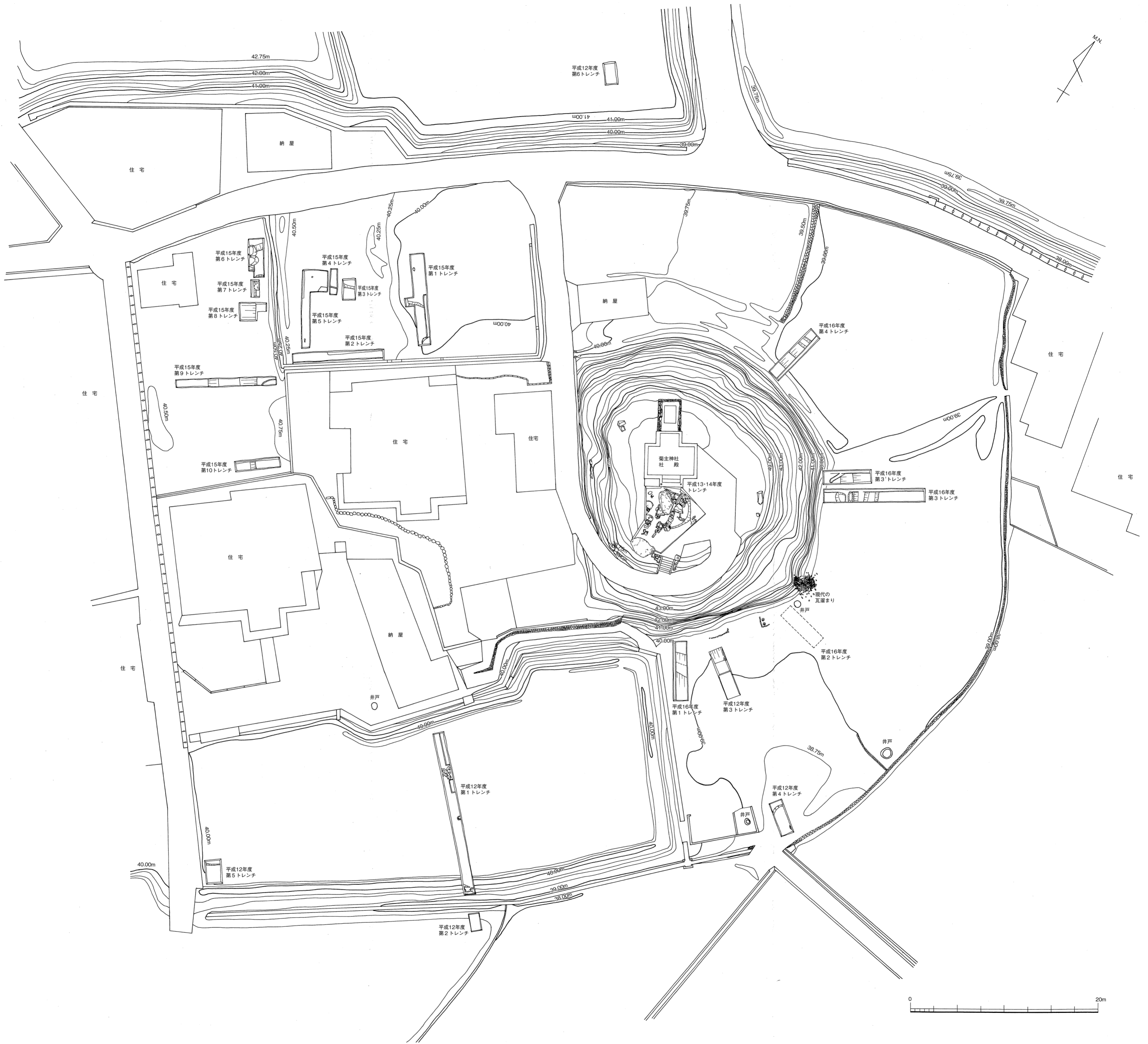
善通寺市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 10

善通寺旧境内
善通寺陣所跡
四国学院大学構内遺跡
菊塚古墳
樽池西手山頂墳 3号

平成17 (2005)年3月31日

発行 善通寺市教育委員会
〒765-0013 香川県善通寺市文京町2丁目1番4号
TEL 0877-63-6328 FAX 0877-63-6348

印刷 (有)西村謄写堂
〒780-0901 高知県高知市上町1丁目6番4号



付図 菊塚古墳墳丘測量図 (1 : 300)

報告書仕様

紙質 表紙：レザック 215kg こそめ

本文：マットコート 76.5kg

写真図版・扉：マットアート 93.5kg

見返し：タント N-8 130kg

写真図版 175線

表紙挿図

善通寺市指定文化財
神原家善通寺村絵図(部分)

【善通寺市所蔵】

神原家に所蔵されていた古地図で、香川県と徳島県が合併し名東県と呼ばれていた明治時代初期に製作されたもの。絵図には、善通寺伽藍(旧境内)や誕生院(西院)、観智院や華蔵院などの子院の堂宇が詳細に描かれており、伽藍内には二層目まで再建途中の五重塔の姿もみえる。二層目上棟が慶応3(1867)年、三層目上棟が明治12(1879)年であることが文献によって確認されており、絵図作成時の五重塔の状況が忠実に描かれていることが窺える。また当時の地形のほか、字名や戸数まで細かく記されている。佐古や内田、財ノ神など、現在も残る字名が記入されている上、西行庵、荒魂神社、荒神、毘沙門天、新田明神など、今もなお地域で信仰の対象として祀られている寺社も正確に記入されており、現在との対比が可能である(海邊)。